朝日新聞 美術
9th Aug1986
日本の造形性と韓国の精神性
国情を反映「日韓現代美術展」

福岡市 美術館

ソウルと福岡で交互に開いてきた「日韓現代美術展」の六回目が福岡市美術館(同市大濠公園)で開かれている。七月には北九州市立美術館で「日韓作家二十人展」、九月には下関市立美術館で「日韓交流現代版画展」。現代美術における日
韓交流の花ざかりである。

「日韓現代美術展」は、彫刻展と絵画展の二本立てだ。彫刻展には、朴石元、金正明ら韓国現代彫刻会の二十四人と中西久吉、安川民畝(福岡市)ら現代彫刻家集団-福岡の二十六人、 絵画展には、徐承元、李斗植らオリジン絵画協会の五十七人と石橋泰幸(福岡市) 酒井忠臣 (宗像市)ら二十人が一点ずつ 出品している。韓国側は弘益大学校美術大学の OB たち、日本側は福岡市を中心とした作家たちである。

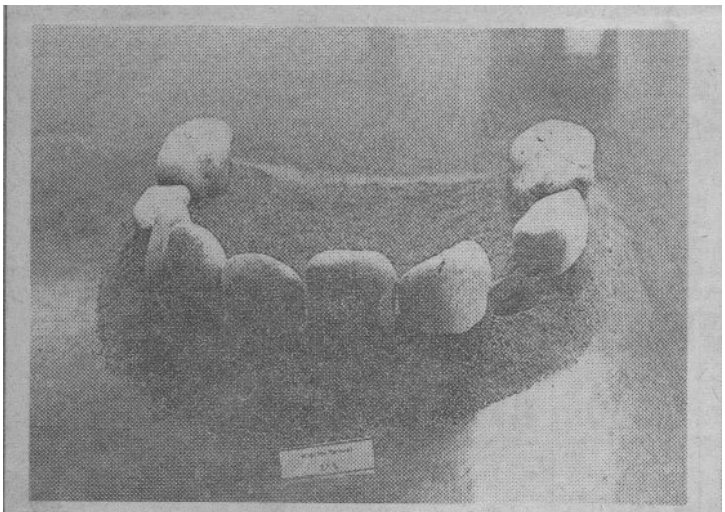
ここに出品されたものだけで日韓の現代美術を論ずることはできないが、ここに出品されている作品に限っていえば、日韓はかなり対照的だ。ともに多様な材質を使い、多様な様式、表現を試みているが、ひと口にいって、韓国の作品は、国籍や風土や社会を強く感じさせるが、日本側はそれが希薄だ。さらにいえば、韓国側は精神性に、日本側は造形性に傾斜している。

たとえば韓国の姜振模の彫刻 「拷問」は、幼児の頭大の石八個を砂の上に歯のように配置している。その歯の一本が抜かれた痕跡もある。前歯二本には拷問の象徴だろうか、穴がうがたれている。崔徳教のブロンズ彫刻「A Bird Cage_ 自由 88-1」は、鳥かごの編み目から無数の触手のようなものが外に向かって差し出されている。日本人にはわからない厳しい状況が韓国にはあるのだろう。

韓国の絵画で目立つのは、手すき紙(韓紙)による作品だ。 紙に描くだけでなく、切り、重ね、他の材質と組み合わせるものから紙自体の加工まで多彩だ。韓国独自の美術を開拓しようという共通の意思を感じる。

彫刻も絵画も、韓国は表現が禁欲的だ。ぐっと抑制している。しかし、凝縮された情念を内に秘めている。逆に日本側は 開放的で、造形することを楽しんでいるかのようだ。

しかし造形的な技巧や面白さに偏り、訴えてくるものは乏しい。自由と平和の中にどっぷりとつかった日本の現実の反映とも見える。



姜振模「拷問」

美術

日本の造形性と韓国の精神性
国情を反映「日韓現代美術展」

福岡市美術館

ソウルと福岡でオリジン絵画協会の五十七人と石橋泰幸（福岡市）酒井忠臣（宗像市）ら二十人が一点ずつ交互に開いてきた「日韓現代美術展」の六回目が福岡市美術館（同市大濠公園）で開かれている。七月には北九州市立美術館で「日韓作家二十人展」、九月には下関市立美術館で「日韓交流現代版画展」。現代美術における日韓交流の花ざかりである。

「日韓現代美術展」は、彫刻展と絵画展の二本立てだ。彫刻展には、朴石元、金正明ら韓国現代彫刻会の二十四人と中西久吉、安川民畝（福岡市）ら現代彫刻家集団十福岡の二十六人、絵画展には、徐承元、李斗植ら日本側はそれが希薄だ。さらにいえば、韓国側は精神性に、日本側は造形性に傾斜している。

たとえば韓国の姜振模の彫刻「拷問」は、幼児の頭大の石八個を砂の上に歯のように配置している。その歯の一本が抜かれた痕跡もある。前歯二本には拷問の象徴だろうか、穴があけられている。崔徳教のブロンズ彫刻「A Bird Cage―自由86―1」は、鳥かごの編み目から無数の触手のようなものが外に向かって差し出されている。日本人にはわからない厳しい状況が韓国にはあるのだろう。

韓国の絵画で目立つのは、手すき紙（韓紙）による作品だ。紙に描くだけでなく、切り、重ね、他の材質と組み合わせるものから紙自体の加工まで多彩だ。韓国独自の美術を開拓しようという共通の意思を感じる。

彫刻も絵画も、韓国は表現が禁欲的だ。ぐっと抑制している。しかし、凝縮された情念を内に秘めている。逆に日本側は開放的で、造形することを楽しんでいるかのようだ。しかし造形的な技巧や面白さに偏り、訴えてくるものは乏しい。自由と平和の中にどっぷりとつかった日本の現実の反映とも見える。（源）

―10日まで。